

## 令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立西濃高等特別支援学校 学校番号 110

### 自己評価

学校教育目標	企業就労による社会自立に向け、高い志をもち、専門性の高い知識・技能を身に付け、地域や社会に貢献できる人間性豊かな生徒を育成する。 ① 夢や目標の実現に向け、様々な活動に挑戦し、自ら選択・判断できる生徒 ② 専門性の高い知識・技能及び態度を身に付け、社会人・職業人として自立できる生徒 ③ 豊かな人間関係を築き、進んで地域や社会に貢献できる生徒
--------	--

評価する領域・分野	1 「教育活動」 「学習指導」		
現状及びアンケートの結果分析等 <%表記について> (生徒%, 保護者%) (生 %) (保 %) ( ___ %) は前年度より高いところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方針や指導の内容をわかりやすく伝えている(生 81.0%, 保 75.0%)</li> <li>・学校は地域と連携して特色ある教育活動を展開している(生 71.4%, 保 86.4%)</li> <li>・学校の授業には、体験的な活動が取り入れられ、生徒は意欲的に取り組んでいる(保 81.9%)</li> <li>・授業は、生徒一人一人に合った教材等が準備されている(生 85.7%, 保 68.2%)</li> <li>・学校の授業内容や進度は、生徒の実態に即している(保 70.5%)</li> <li>・学校は、授業や学校行事等を参観する機会を設けて、教育活動について積極的に公開している(保 81.8%)</li> </ul>		
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の進路希望や学習状況を踏まえたきめ細かな指導の充実</li> <li>・教育課程、教育内容を十分検討したうえでの基礎的・基本的な学習内容の定着と、社会生活で活用できる実践力の伸長</li> <li>・総合産業科における専門性の高い職業教育の推進</li> </ul>		
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程委員会、研究推進委員会（目標や指導内容の検討）</li> <li>・教科会、コース会（教科の指導内容の精選と指導計画の立案）</li> <li>・学年、分掌のICT担当による連携</li> </ul>		
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な個人懇談の実施</li> <li>・職員研修や校内研究の継続的な実施</li> <li>・各教科・コースにおける指導内容と評価項目の整理</li> <li>・タブレット活用、ホームページ更新についての校内体制整備</li> </ul>		
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の取組状況、定期考査の取組状況</li> <li>・指導と評価の年間計画の見直し状況、個別の指導計画の合意状況</li> <li>・学校評価アンケートによる理解度の状況</li> </ul>		
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査を実施し、計画的な学習への取組を促進した。</li> <li>・個人懇談を定期的に行い、生徒一人一人の取組状況を確認し、成果と課題を明確にして継続的な指導に繋げた。</li> <li>・年間を通して職員研修や研究を継続的に実施した。</li> </ul>		
評価の視点	評価		
①生徒一人一人への教育支援（個別の指導計画、懇談による継続的な指導）	<input checked="" type="checkbox"/> A	B	C D
②系統的な教科指導と評価方法の確立（定期考査の実施、評価基準の設定）	A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C D
③教員の専門性の向上（職員研修、校内研究の取組状況）	A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C D
成果・課題（○成果・▲課題）	総合評価		
○各教科でタブレット等を活用した効果的な学習を行うことができた。 ○授業参観週間や懇談、学校行事等で多くの保護者に生徒の学校での様子を見てもらい、連携して支援を行うことができた。 ▲系統的、教科横断的な指導内容の検討を今後も続けていく必要がある。	A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C D

来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画をもとに、生徒の主体的な学習活動を促進</li> <li>・個人懇談や通信、HP等を通じて、本校の教育活動のさらなる理解促進</li> <li>・職員の研究や教科会等による指導内容の精選、つきたい力の共通理解</li> </ul>
---------------	--

### 学校関係者評価 (令和6年2月1日実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験的な活動が取り入れられていることは、取り組む生徒の自信にも繋がり、とても良いと思う。</li> <li>・研修や公開授業等を通して、教員の質の向上（底上げ）を目指していることが感じられ、とても評価できる。</li> <li>・タブレットを活用した発表が行われており、発表を通じて、自分の考えたことや調べたことを表現する力を身に付けることは、今後の就労にもつながる効果的な学習ができています。</li> <li>・研修主事をおき、校内研修の実施等をして学習活動やその内容を整理し、生徒一人一人の個別の指導計画と合わせて、共通した目標に向かう校内体制の構築を目指すことを評価できる。</li> </ul>
---

評価する領域・分野	2「生徒指導」「教育相談」	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ではいじめや差別を許さず厳しく対応している(生 84.1%, 保 72.8%)</li> <li>・学校は、生徒の安全に気を配り、緊急時の対応がしっかりしている。(生 84.1%, 保 90.9%)</li> <li>・学校の先生は生徒に愛情をもって接している(生 66.7%, 保 72.7%)</li> </ul>	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・望ましい人間関係を築く力と自己指導能力を育てる</li> <li>・発達支持的生徒指導の徹底</li> <li>・全校体制による日常的な教育相談の実施</li> </ul>	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導部、教育相談担当、各学年、特別支援コーディネーター</li> <li>・外部専門家との連携（教育委員会、スクールカウンセラー、警察 等）</li> </ul>	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種ガイダンスの開催（情報モラル教育、交通安全教室、薬物乱用防止）</li> <li>・生活（心の）アンケート（いじめ防止、教育相談、生活改善）</li> <li>・SOS 教育の充実</li> <li>・特別活動、課外活動の充実（部活動、委員会活動、学校行事への取組）</li> </ul>	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題行動等の集計結果</li> <li>・生徒感想や行動・言動の様子や変化（各ガイダンスやホームルーム活動等）</li> <li>・生活（心の）アンケートの記入状況、教育相談実施状況</li> </ul>	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師による、各種ガイダンスを実施。事後指導を行い、知識を深めた。</li> <li>・アンケートや日常の様子などから、問題を抱える生徒の把握に努め、積極的且つ継続的な声掛けを実施。</li> <li>・特別活動（委員会、学校祭）の取り組みの中で主体的な活動を支援した。学校内のルールについて生徒会からの意見を受け、全校で協議を行った。</li> </ul>	
評価の視点	評価	
① 問題行動、交通事故数、欠席・遅刻・早退などの出席状況の変化	A	<b>B</b> C D
② 心のアンケートの記述内容と対応状況(教育相談、生徒指導委員会の開催)	<b>A</b>	B C D
③ 特別活動の取り組み状況	<b>A</b>	B C D
成果・課題 (○成果・▲課題)	総合評価	
○生徒への声掛け、励まし、賞賛、対話を大切にすることで、課題の早期発見、コミュニケーションによる気付きを促すことができた。また、不登校生徒においては個々の状況に応じた適切な働きかけや関わりをもつことができた。 ▲自らの意見を述べる、自ら考え、選択し決定するなどの自己決定の場を多く設定し、自己指導能力の育成を目指したい。	A	<b>B</b> C D

来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に寄り添った共感的理解と受容の姿勢。</li> <li>・どの段階でどのような指導・支援が必要かという時間的視点。</li> <li>・学校生活の充実が図れるよう生徒の主体的・創造的な活動の場を設定する。</li> </ul>
---------------	---

### 学校関係者評価 (令和6年2月1日実施)

意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「緊急時対応」の項目で保護者の評価が高く、適切な対応ができていると思われる。</li> <li>・社会で生き抜くためには、人間関係を築くための取り組みがとても良いと思う。</li> <li>・不登校の生徒がいると聞いているので気になる。適切な支援をお願いしたい。</li> <li>・自立心、自分で考え行動する力を身につける教育をお願いしたい。</li> <li>・生徒指導は生活していくうえでのモラルやルールを養うために必要であり、今後も指標をもとに指導・支援をお願いしたい。</li> </ul>
-----------	--

評価する領域・分野	3「進路指導」
現状及びアンケートの結果分析等	<p>○生徒一人一人の良さや可能性を伸ばせるような工夫をしている (生 77.8%, 保 81.8%)</p> <p>○進路に関する連絡や情報をわかりやすく伝えている (生 85.7%, 保 77.3%)</p> <p>○生徒の気持ちや様子を詳しく知っている・生徒の実態を的確に捉えている (生 66.7%, 保 72.7%)</p> <p>○進路指導において、関係機関ときめ細かく連携している (生 76.1%, 保 72.7%)</p> <p>○将来の職業自立や進路の実現を目指した積極的な学習を行っている (生 90.5%, 保 86.3%)</p> <p>※昨年度の結果に比べると、保護者の評価が全て高くなっている。</p>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自身の自己理解 (特性や就職への希望等) を深め、自己を成長させることができる生徒を育てる。</li> <li>・進路通信や就職の実績等をホームページにアップし、保護者や外部関係者の理解を深める。</li> <li>・企業の方へ学校見学を勧め、実際の生徒の様子を積極的に見ていただく時間を多く設定し、生徒の実態理解を深める。</li> <li>・保護者全体への発信は進路指導主事、学年・クラスでの発信は学年主任や担任という役割分担を行い、組織としての信頼度を高める。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーとなる者 (管理職、指導主事、学年主任) の強いリーダーシップ。</li> <li>・データの蓄積とその分析をもとにした、明確なビジョンを組織として共有できる校内体制作り。(目標の共有)</li> <li>・教員一人一人の自覚と学びを促す、学校運営。</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自身が自己理解を深めることができる環境作り。担任 (身近な教員) との信頼関係作り。</li> <li>・進路指導部と支援機関、企業との深い関わり。学校、生徒の能力のアピールと現状 (障がいのある人の生き方・給与等) を少しずつ変えたいという「自立・共生」への動きを企業に理解していただく取組みの継続。</li> <li>・ホームページを使った情報発信。</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つけたい力チェックシートを活用した総合的な評価</li> <li>・社会 (企業) や保護者・生徒の評価</li> <li>・就職率や正社員率と卒業生の離職率</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路の手引きの活用 (教員、保護者、生徒)</li> <li>・各学年の課題に応じた、段階的な取り組みの実施</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページを活用した情報発信</li> <li>・企業等が参加するセミナー等での積極的な発表、学校見学</li> <li>・担任等の進路に関する知識・経験値の向上</li> </ul>
評価の視点	評価
① 進路の手引きやチェックシートの活用 (校内の職員)	A <b>B</b> C D
② 保護者の研修や企業の方への情報発信	A <b>B</b> C D
③ 3年生の就職率、正社員率	A <b>B</b> C D
成果・課題 (○成果・▲課題)	総合評価
○保護者への情報発信 (満足度向上)、企業への情報発信が可能な限りできた。 ▲3年間右肩上がりだった就職率・正社員率がほぼ横ばいとなった。 ▲校内組織を考えたとき、非常に脆弱である。日々の業務に追われ、研修 (学ぶ) 時間や情報共有、意思疎通する時間が少なく、チームとして弱い。	A <b>B</b> C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校としての軸 (基本的な考え方、ビジョン) を再確認して、教員一人一人がバラバラの方向を向かないよう、分掌が中心となって働きかけるほか、組織の作り替えや立て直しを図る必要がある。</li> <li>・学校規模が小さいため、個の力で打開できる場面が多いが、組織としての力をもう少し上げていかないと、「高等特別支援学校」としての価値が下がる。</li> </ul>

#### 学校関係者評価 (令和6年2月1日実施)

意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に「将来の自立や進路実現を目指す学習」について、高評価を得ており、十分な取り組みがなされていると考えられる。</li> <li>・進路通信の配付や就職の実績等をホームページにアップして、取組や実績を見える化していることは良いと思う。</li> <li>・特定の職員が尽力していると聞いた。職員の配置にも十分な配慮が必要である。</li> <li>・個別支援を重点として、今後も指導してほしい。</li> <li>・保護者の理解・評価が高めるような「進路通信」などをすることが効果的であったと考える。</li> </ul>
-----------	---

評価する領域・分野	4「保健管理」「安全管理」
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の先生は、医師や看護師、保健室の先生とよく相談している。(生 46.1%, 保 79.6%)</li> <li>・学校は生徒の安全に気を配り、緊急時の対応がしっかりしている。(生 84.1%, 保 90.9%)</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が健康な生活を実践できるよう、保健教育や保健指導等の健康教育を充実させるとともに、学校環境の衛生管理に努める。</li> <li>・生徒・職員が安全に対する危機管理意識をもち、適切な判断や行動ができるよう様々な想定での各種訓練を実施し、命を大切にできる生徒を育てる。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健安全委員会、保健安全部、学年会。</li> <li>・学校医及びスクールカウンセラーとの連携。</li> <li>・危機管理マニュアルに基づく非常変災時の組織。</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自らの健康管理の定着と清潔な校内環境の維持。</li> <li>・外部医療機関や外部講師との連携と保健教育の充実。</li> <li>・防災や救命に係る研修や訓練の実施。</li> </ul>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診断における受診勧告の受診率の向上。</li> <li>・命を守るための行動の定着。</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の健康観察の実施とほけんだより(毎月)による啓発活動を実施した。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関と連携した健康診断の実施し、必要に応じて医療機関への受診を依頼した。</li> <li>・外部講師を招いての防災教室や、実践的な命を守る訓練を実施した。</li> </ul>
評価の視点	評価
① 毎日の健康観察と清掃活動の実施	A B C D
② 健康診断の実施と必要に応じて受診を勧告	A B C D
③ 講習や訓練の実施による防災意識の向上	A B C D
成果・課題	総合評価
<p>○毎日の健康観察の実施を通して、生徒状況の把握と早期の対応ができた。</p> <p>○毎日の清掃活動と専門コースと連携した定期清掃により、清潔な校内環境を維持できた。</p> <p>○健康診断の再検査の受診勧告を積極的に行い、再受診率を上げることができた。</p> <p>○様々なシチュエーションを設定して、より実践的な命を守る訓練を実施した。</p> <p>▲アンケート結果から、生徒は教師と保健室や学校と学校医との連携が不足していると認識しているが、33.3%の生徒はわからないと答えている。生徒に見えにくい部分であるため、例年低い結果になると考えられる。</p>	A B C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師と保健室との情報共有を促進する。</li> <li>・大型の災害やミサイルやテロ等の新たな脅威に備え、防災教育を充実する。</li> </ul>

#### 学校関係者評価 (令和6年2月1日実施)

意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各評価の視点の評価がすべてAであり、しっかり対応されていると思われる。</li> <li>・外部講師を招くなど、外部人材を活用した防災訓練や実践的な訓練は良いことだと思う。</li> <li>・多様な障がいに対応できるよう、早めに医療機関と連携することが大切である。</li> <li>・災害はいつ発生するかわからない。能登半島地震などの事案をもとに危機管理と対策を継続してほしい。</li> </ul>
-----------	--

評価する領域・分野	5「保護者との連携」「個別の教育支援計画の合意形成」
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の先生は、教育の目標や指導の内容を家の人にわかりやすく説明している。(生81.0%)</li> <li>・学校の先生は、個別の教育支援計画を家の人と相談し、自分の目標をわかりやすく説明している。(生71.4%)</li> <li>・学校の先生は、個別の教育支援計画を保護者や関係機関と連携して作成し、将来を見通した支援をしている。(保79.7%)</li> <li>・保護者や関係諸機関の意見が個別の教育支援計画に反映されている。(保72.7%)</li> </ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や関係機関と連携を図り、生徒が地域や学校において、地域社会の一員として充実した生活を送ることができるように支援する。</li> <li>・地域での特別支援教育のセンター的役割を推進する。</li> <li>・生徒の健全な発達及び福祉の増進を図るため、保護者が主体的にPTA活動に取り組むことができるよう支援する。</li> </ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域支援部、学年会、ケース会議</li> </ul>
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年会及び各コースの担当者による生徒の情報共有</li> <li>・懇談時における個別の教育支援計画についての協議</li> <li>・PTA本部役員会、各種委員会への協力</li> </ul>

達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 懇談時の協議内容</li> <li>・ P T A活動への出席状況</li> </ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒との懇談を随時行い、その都度目標を修正及び確認を行った。</li> <li>・ 懇談（定期）の他、必要に応じ関係分掌の職員や関係機関等メンバーを交え、個別の教育支援計画の内容の共有と改善に向けた協議を充実することができた。</li> <li>・ P T A本部役員会や各種委員会を年度当初の計画通り実施することができた。</li> </ul>
評価の視点	評価
① 学校と保護者の連携状況	A B C D
② 懇談時の保護者の思いや本人の願いの共有状況	A B C D
③ 保護者同士の活動の交流や意見交流の状況	A B C D
成果・課題（○成果・▲課題）	総合評価
<p>○懇談時に本人や保護者の願い等を確認し、支援につなげることができた。</p> <p>○必要に応じて懇談やケース会議を実施、関係機関との連携を図ることができた。</p> <p>○P T A活動を年度当初の計画通り実施することができた。</p> <p>▲頻繁に生徒や保護者の思いや願いを確認し、家庭や関係機関との連携を密に行い、よりよい支援につながるようにする。</p> <p>▲P T A活動への参加者が少なかった。</p>	A B C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の健全な発達を促すような支援につながるよう保護者、関係機関等と連携を図り、個別の支援計画の策定をする。</li> <li>・ P T A活動内容を精選し、会員の方が多く参加してもらえようような研修及び会員同士が交流できる場を企画していく。</li> </ul>

#### 学校関係者評価（令和6年2月1日実施）

意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「家の人にわかりやすく説明」が高評価である。「将来を見通した支援」についても良い評価であり、各家庭との連携が十分なされていると考えられる。</li> <li>・ P T A研修会等の出席率が低いことがとても気になる。参画しやすくなる方策を検討してほしい。</li> <li>・ 地域の人的資源を利用して、連携を強化されているのは良い。今後も専門機関との連携を深めてほしい。</li> <li>・ 生徒指導は、保護者との連携なくして成立しないと考える。学校行事の全てにおいて保護者との連絡を密にお願いしたい。</li> </ul>
-----------	---